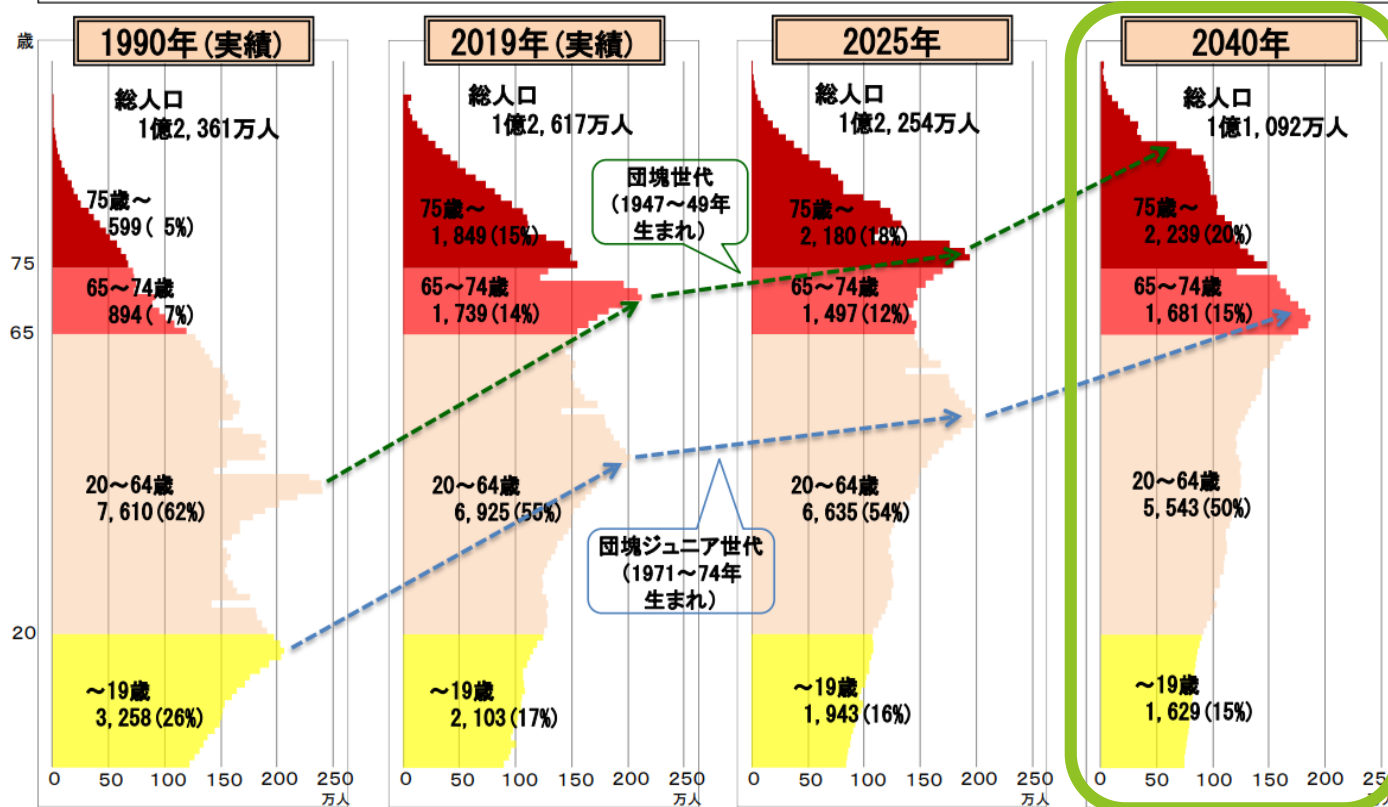


2040年問題について

- 団塊の世代が全て75歳となる2025年には、75歳以上が全人口の18%となる。
- 2040年には、人口は1億1,092万人に減少するが、一方で、65歳以上は全人口の約35%となる。

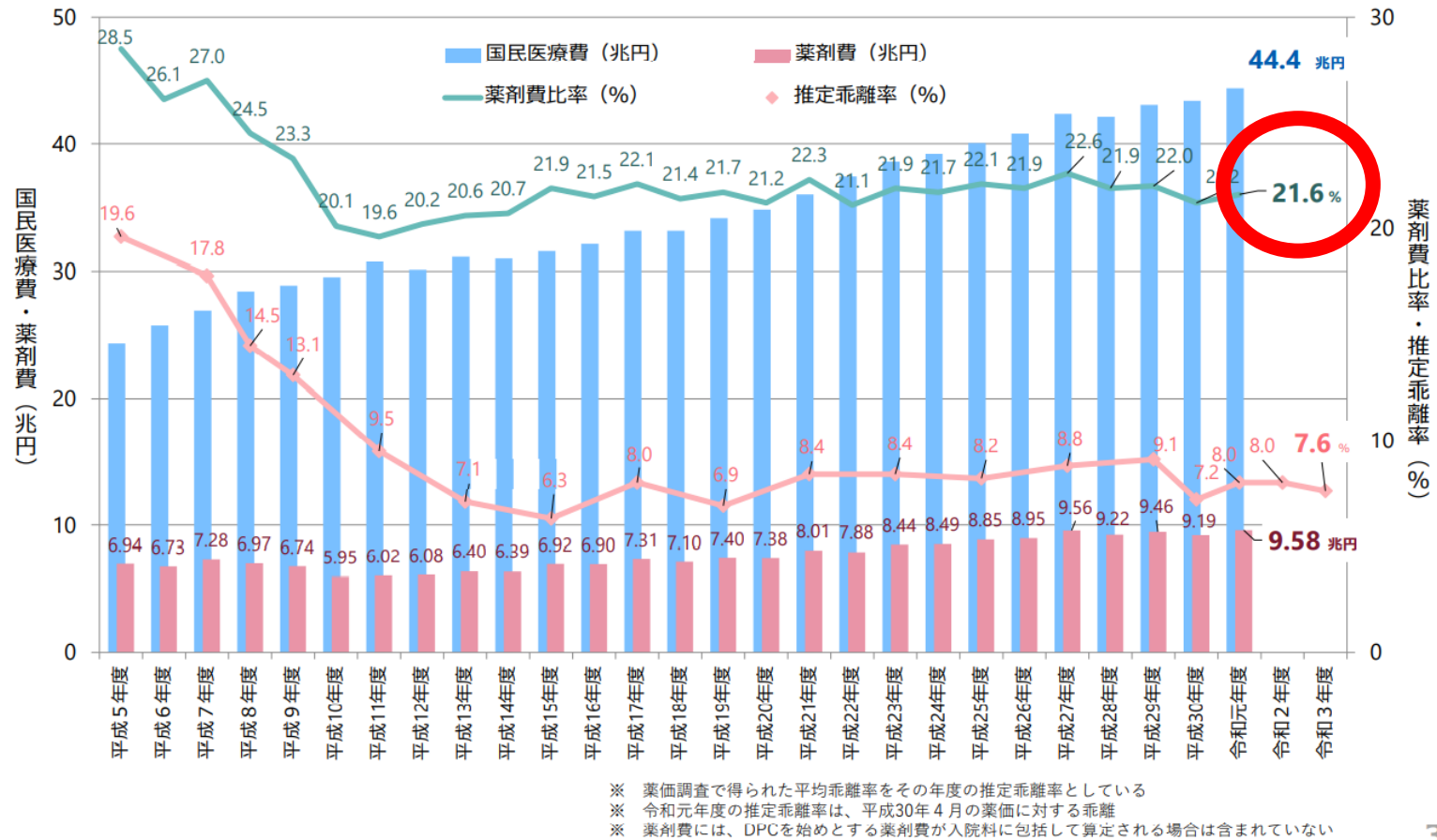


(出所) 総務省「国勢調査(年齢不詳をあん分した人口)」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計):出生中位・死亡中位推計」

2040年には、1971～74年生まれ団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となり、**高齢者人口がピーク**となる年です。その割合は**全人口の35%**を占めるといわれています。

一方で現役世代の急減により、介護・福祉における人手不足、社会保障費のさらなる増大が懸念されています。

国民医療費及び薬剤比率の年次推移



とりわけ我が国の国民医療費に占める薬剤費比率の割合は、諸外国に比べ高い割合を示しており、

20%前後を推移しています。

今後、後期高齢者の増大に伴い薬剤費総額が**さらに増大**していくことが予想されます。

医療費増大の対策として

- ▶ 「経済財政運営と改革の基本方針2021」において、後発医薬品の使用促進のため
フォーミュラリの活用が掲げられています。

フォーミュラリとは

▶ 定義

患者に対してEBMに則りながら

「有効性」「安全性」「経済性」などの観点から

総合的に使用が推奨される医薬品集および使用指針

▶ 目的

その実施により**標準的な薬物治療**が推進される

(日本フォーミュラリ学会HPより)

院内フォーミュラリ：病院単位で策定する

「地域フォーミュラリ」：地域単位で策定する

■ 院内フォーミュラリ及び地域フォーミュラリについて

	院内フォーミュラリ	地域フォーミュラリ
作成者	院内の医師や薬剤師	地域の医師(会)、薬剤師(会)、中核病院
ステークホルダー (意思決定者)	少ない (理事長・オーナー、薬剤部長など)	多い (診療所、薬局、中核病院、地域保険者、自治体など)
管理運営	病院薬剤部	薬剤師会（医師会）
難易度	易	難
地域の医療経済への影響度	小さい	大きい

厚生労働省：医薬品・医療機器の効率的かつ有効・安全な使用等について、2019年6月26日、

<https://www.mhlw.go.jp/content/12404000/000522373.pdf>

ステークホルダー多さや運営の規模が異なり、地域フォーミュラリの方が**難易度は高い**とされています。

院内フォーミュラリのメリット：エビデンスに基づく質の高い医療の提供、後発医薬品の活用による薬剤費削減効果、院内採用医薬品の見直しや簡明化、医師や病棟薬剤師の業務負担軽減等があります。

地域フォーミュラリのメリット

